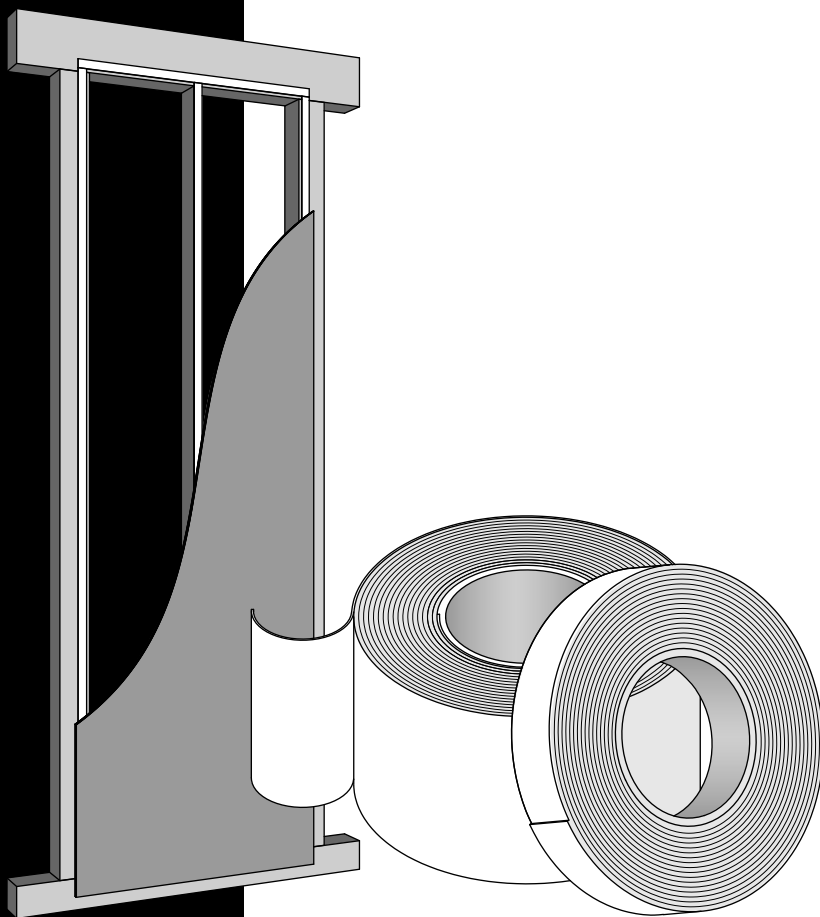


# “家まるごと制震ダンパー” 制震テープ®

設計者・施工者向け

## テクニカルガイド

2025 改訂版



### はじめに | 注意事項

- はじめに
- 正しくお使いいただくための注意事項
- 法令上の注意事項

### 製品の基本情報

- 制震テープの仕様
- 製品梱包荷姿

### 施工要領

- 施工の準備
- 施工パターン
- 施工要領
  - ・外周部耐力壁のみ
  - ・外周部全周 **小屋裏なし**
  - ・外周部全周 **小屋裏あり**



テクニカルガイドには、重要な注意事項や製品の正しい施工方法を示しています。本書をよくお読みのうえ、製品を正しくお取り扱い下さい。使用方法の誤りは、十分な効果が得られない原因となります。

# はじめに

制震テープ・テクニカルガイド 2025 改訂版は、制震テープの施工要領書として今後の共通基準となるものです。製品リリースから 25 年、多くの設計者・施工者の皆様にご使用いただきながら、決して一様ではない建築現場での対応ノウハウの共有を通じて、ともに製品を育てていただいたと実感しています。

地球温暖化対策として CO<sub>2</sub> 排出量の削減が求められる中、住宅の高断熱化は加速度的に進み、気密性能の重要性にも注目が集まるようになりました。さらに、健康意識の高まりを背景に、花粉・PM2.5・黄砂などの汚染物質の屋内侵入を防ぐという観点からも、気密性能の向上が求められています。

制震テープは、建物の気密性能を向上させるために必要な材料特性（気密性・水密性・耐水性等）を備えています。また、制震テープの施工箇所は壁面の気密施工箇所とほぼ一致しているため、作業の重複を回避し、わずかな工数の追加で高水準な気密性能を得ることが可能です。

本改訂版では、制震性能と同時に気密性能の向上も目的とし、これまで標準としていた施工手法の一部を見直しています。この度の改訂が、工期短縮やコスト削減といった建築プロジェクト全体の効率化に貢献し、ひいては顧客満足度の向上につながることを願っております。

2025年8月1日 改訂

## 正しくお使いいただくための注意事項

制震テープをご使用になる前に、必ずこのテクニカルガイドをお読みください。  
使用方法の誤りは、十分な効果が得られない原因となります。

### ■ 制震テープを目的の用途以外には使用しない

制震テープは、地震の揺れによる木造住宅の変形を低減させることを目的としています。各種部材の固定や電気絶縁用途には使用できません。

### ■ 軸組が健全な状態であること

腐食・損傷していて、軸組そのものの性能を発揮することができない場合は、制震テープ施工前に軸組の改善・補強検討を行うこと。

### ■ 接着面の汚れ・粉体（埃）・油分・樹脂を除去する

制震テープを貼る面が汚れていると十分な効果が得られません。接着面の汚れ・粉体（埃）・油分・樹脂などを除去してからご使用ください。

### ■ 釘ピッチ毎の凹凸が 1 mm 以内であること

施工面に凹凸がある場合は、凹凸差が 1 mm 以内になるように表面を削ります。

### ■ 幼児の手の届かないところで保管する

幼児の手の届かないところで保管して下さい。また、長時間かつ繰り返し皮膚に触れないようご注意ください。

### ■ 制震テープのカットは刃物を使用する

制震テープのカットは、カッターなどの刃物を使用し丁寧に作業して下さい。刃物を使わずに手でちぎると、長さが不正確になったり、厚さが不均一になるなど、十分な効果が得られない原因となります。

### ■ 直射日光や熱源を避け、涼しい所で保管する

制震テープは、高温によって粘度が低下し、剥離紙が剥がしにくくなるなど、取扱いが困難な状態になります。直射日光や熱源のない冷暗所で保管して下さい。

また、個包装袋から取り出した制震テープは、側面同士が接触しないようご注意ください。

### ■ 残余廃棄物は適正な処理をする

制震テープを廃棄する場合は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い、都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理事業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合はそこに委託して処理をしてください。下水道や排水溝または公共水域など環境中に放出することのないようご注意ください。

### ■ タッカー止めを使用する場合の注意点

仮止めとしてタッカー止めを使用する場合は、制震テープの厚み（1mm）以上の打ち残しが生じないようにご注意ください。

### ■ 防蟻処理された木材に貼付する場合の注意点

防蟻処理された木材（未乾燥）に貼付する場合は、位置ズレ・剥がれが生じないようにご注意ください。



## 法令上の注意事項

■ 制震テープは、壁量計算に算入できません。

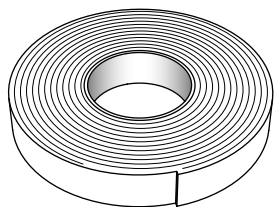
■ 耐力面材の取り付けに使用する釘の種類・ピッチ・打ち込み深さ等は、使用する面材メーカーの施工要領書に準拠してください。

■ 使用する耐力面材は、告示仕様での運用を推奨しております。国土交通大臣認定壁を使用する際は、必ず事前に建築主様にご相談ください。

制震テープは一般財団法人建築防災協会の技術評定を取得しています。耐震改修で使用する際は、評定資料がございますのでご相談ください。

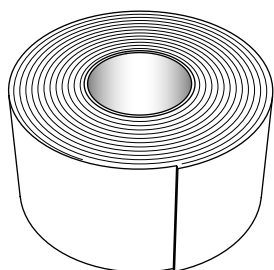
# 製品の基本情報

## ■ 制震テープの仕様



- 品名 制震テープ30mm幅
- 仕様 30mm幅 × 15m 厚み1mm

出荷単位 【大箱】 32巻入り  
【小箱】 8巻入り

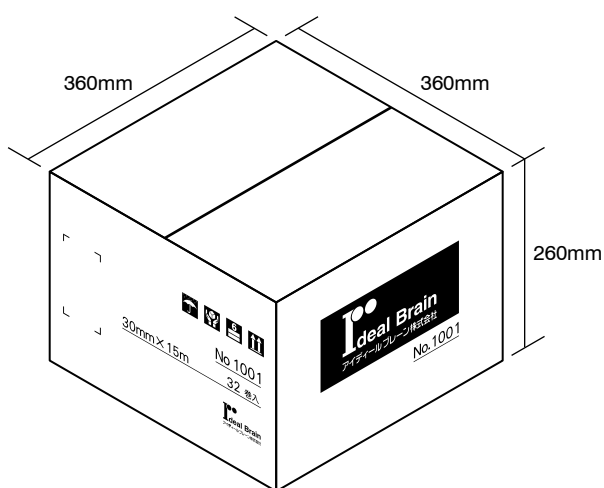


- 品名 制震テープ100mm幅
- 仕様 100mm幅 × 15m 厚み1mm

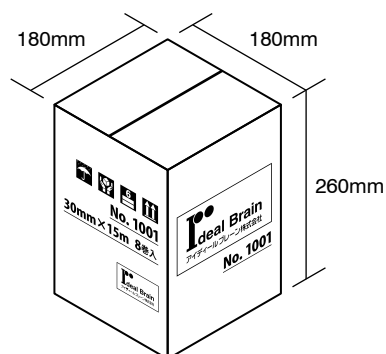
出荷単位 【大箱】 8巻入り  
【小箱】 2巻入り

## ■ 製品梱包荷姿 (制震テープ30mm幅)

施工要領は、制震テープ30mm幅の使用を標準としています。



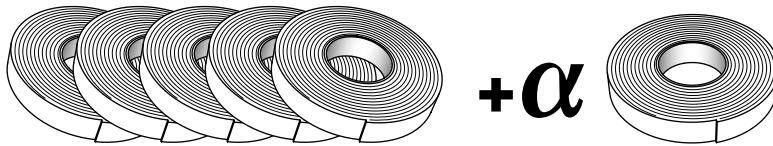
【大箱】 32巻入り  
360mm × 260mm × 360mm



【小箱】 8巻入り  
180mm × 260mm × 180mm

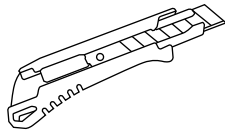
## ■ 施工の準備

### ■ 制震テープの数量

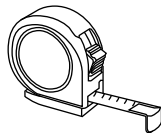


制震テープは、設計上の必要数量に加え、予備も含めてご準備ください。  
貼り損じやその他のトラブルによって材料が不足すると、作業の中断や工期の遅延につながります。

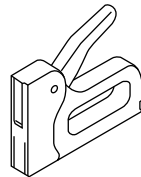
### ■ 工具



カッター



コンベックス



タッカー

## ■ 施工パターン

<b>1</b> 外周部耐力壁のみ	.....	P.5
<b>2</b> 外周部全周 <b>小屋裏なし</b>	.....	P.7
<b>3</b> 外周部全周 <b>小屋裏あり</b>	.....	P.9
<b>4</b> <b>1</b> +内部間仕切り壁	.....	P.5
<b>5</b> <b>2</b> +内部間仕切り壁	.....	P.7
<b>6</b> <b>3</b> +内部間仕切り壁	.....	P.9

施工パターン 14

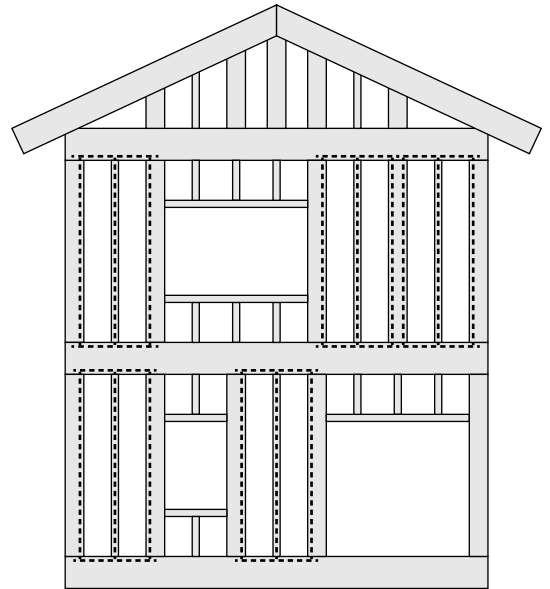
# 外周部耐力壁のみ

## 1. 施工範囲を確認する

施工要領は、制震テープ30mm幅の使用を標準としています。

冒頭の注意事項に加え、下記事項を事前にご確認ください。

- 制震テープを施工する軸材に凹凸がないこと。
  - 釘ピッチ間で1mm以上の凹凸がある場合は要改善。
- 接着面に汚れ等が付着していないこと。
  - 粘着を妨げる汚れ・粉体（埃）・油分・樹脂等は除去してください。
- 接着面が濡れている場合...
  - 制震テープの粘着力が低下します。タッカー止めを使用するなど位置ズレ・剥がれが生じないようにご注意ください。ただし、**油分**など乾燥しない成分については施工前に除去してください。
- 引っ張らず、剥離紙に沿って貼付してください。
  - 制震テープの収縮によって気密欠損が生じる場合があります。



..... 制震テープ貼り付け箇所

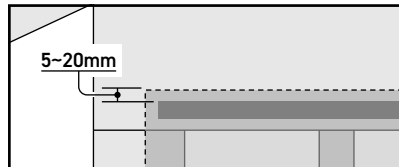
4 内部間仕切り壁の場合

横架材への貼付は不要です。工程3.へ進んでください。

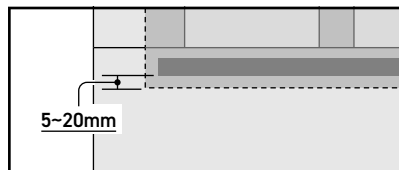
## 2. 横架材へ貼り付ける

- 制震テープは、耐力面材の端部から5～20mm内側に収まる位置に貼り付けます。

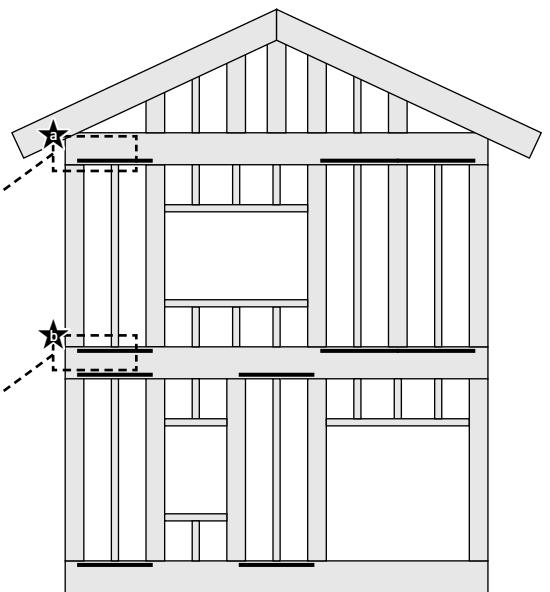
★面材上端から5～20mm内側



★面材下端から5～20mm内側



■ 制震テープ  
■ 面材取付予定位置

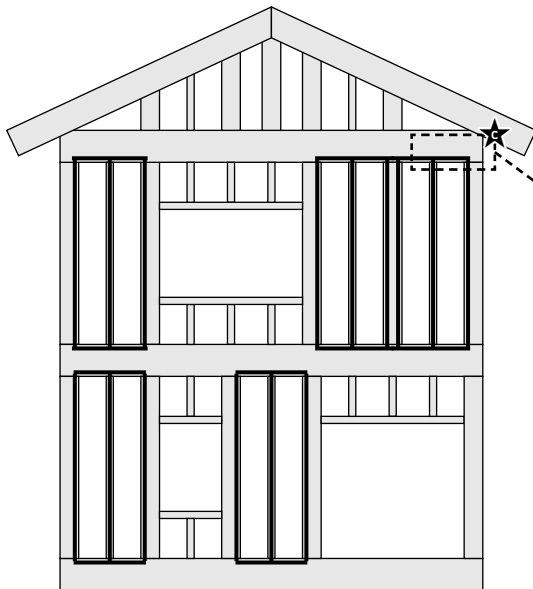


— 制震テープ

**4 内部間仕切り壁の場合**

横架材への貼付は不要です。(図は外周部施工のものです)

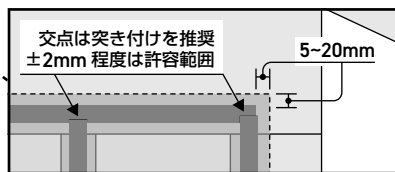
### 3. 柱・間柱へ貼り付ける



— 制震テープ

■制震テープは、耐力面材の端部から5～20mm内側に収まる位置に貼り付けます。

★面材端部から5～20mm内側



■横架材に貼付した制震テープとは、突き付けを推奨。

→ ±2mm 程度は許容範囲

★気密をとる場合は、交点を2mm程度重ねます。

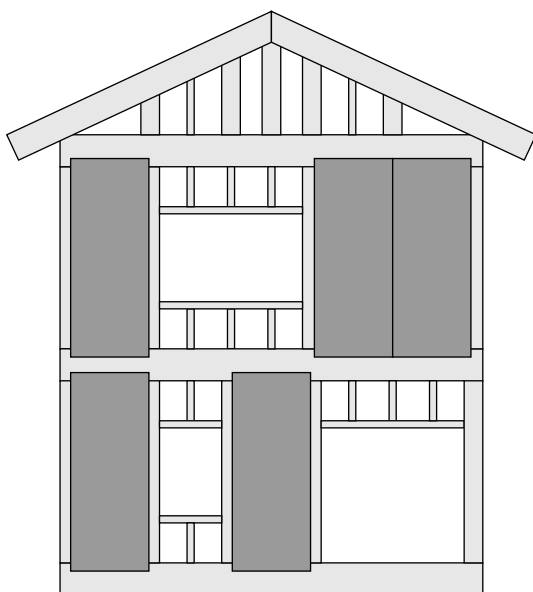
■面材が2枚掛かる柱は2列貼付します。

■工法によっては間柱に施工しない場合もあります。

■出隅柱外側に不陸調整用に施工する場合もあります。

■入隅は受け材に貼付します。

### 4. 耐力面材を取り付ける



#### ⚠️ ご注意ください

制震テープの粘着力は大変強力です。  
貼り合わせ後の、貼り直し・位置調整は困難です。  
あらかじめ、位置決めガイド・手順等を確認の上  
施工してください。

■剥離紙を剥がし、面材を貼り合わせる。

■剥離紙を剥がした後、時間をおかず速やかに面材を取り付けてください。

釘の種類・ピッチ・打ち込み深さ等は、使用する面材メーカーの施工要領書に準拠してください。

※釘位置は、制震テープの直上である必要はありません。

施工パターン 25

# 外周部全周

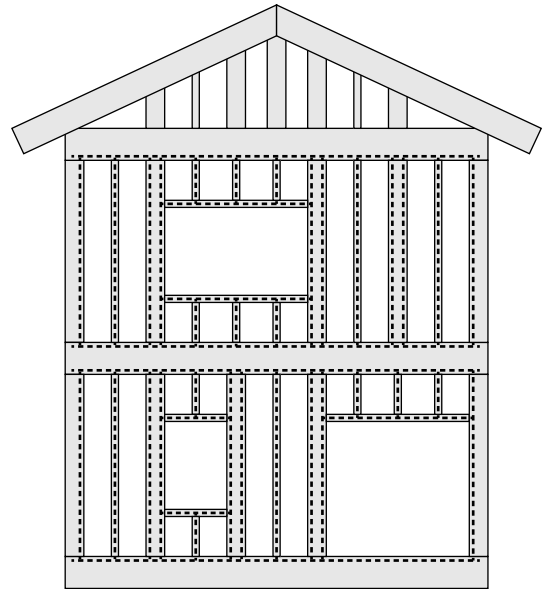
小屋裏なし

## 1. 施工範囲を確認する

施工要領は、制震テープ30mm幅の使用を標準としています。

冒頭の注意事項に加え、下記事項を事前にご確認ください。

- 制震テープを施工する軸材に凹凸がないこと。  
→ 釘ピッチ間で1mm以上の凹凸がある場合は要改善。
- 接着面に汚れ等が付着していないこと。  
→ 粘着を妨げる汚れ・粉体(埃)・油分・樹脂等は除去してください。
- 接着面が濡れている場合...  
→ 制震テープの粘着力が低下します。タッカー止めを使用するなど位置ズレ・剥がれが生じないようにご注意ください。ただし、**油分**など乾燥しない成分については施工前に除去してください。
- 引っ張らず、剥離紙に沿って貼付してください。  
→ 制震テープの収縮によって気密欠損が生じる場合があります。



..... 制震テープ貼り付け箇所

5 内部間仕切り壁の場合

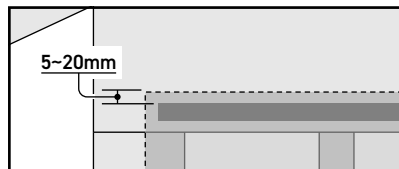
横架材への貼付は不要です。工程3.へ進んでください。

## 2. 横架材へ貼り付ける

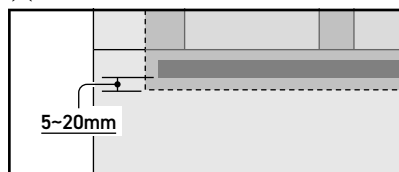
土台・梁

■制震テープは、耐力面材の端部から5～20mm内側に収まる位置に貼り付けます。

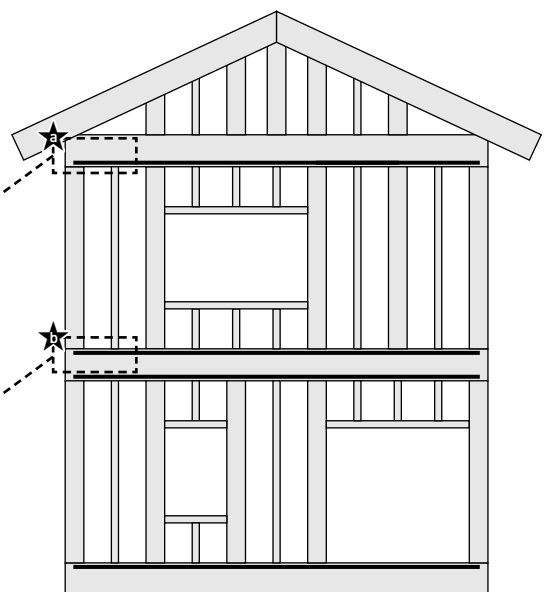
★面材上端から5～20mm内側



★面材下端から5～20mm内側



■ 制震テープ  
■ 面材取付予定位置

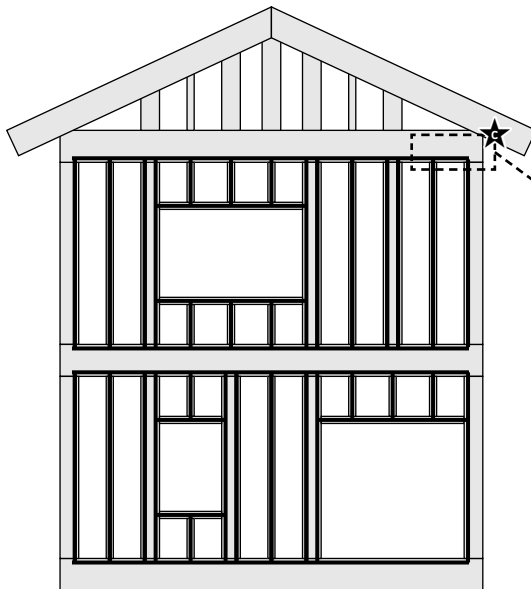


— 制震テープ

5 内部間仕切り壁の場合

横架材への貼付は不要です。(図は外周部施工のものです)

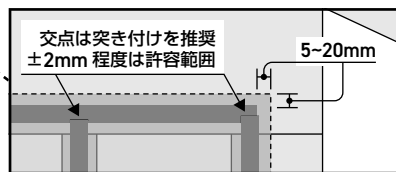
### 3. 柱・間柱へ貼り付ける



— 制震テープ

■制震テープは、耐力面材の端部から5～20mm内側に収まる位置に貼り付けます。

★面材端部から5～20mm内側



■横架材に貼付した制震テープとは、突き付けを推奨。

→ ±2mm程度は許容範囲

★気密をとる場合は、交点を2mm程度重ねます。

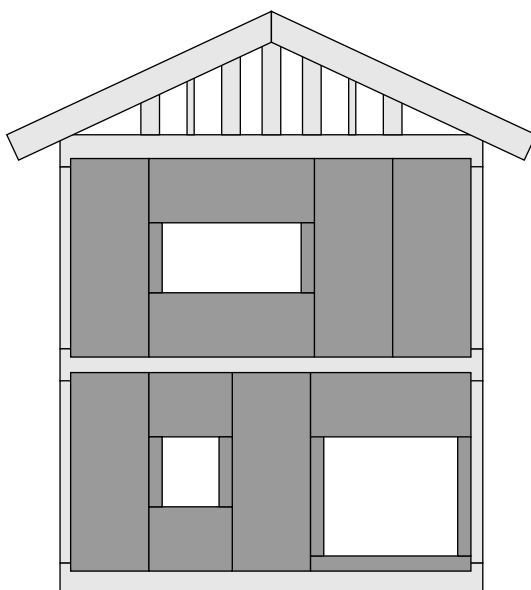
■面材が2枚掛かる柱は2列貼付します。

■工法によっては間柱に施工しない場合もあります。

■出隅柱外側に不陸調整用に施工する場合もあります。

■入隅は受け材に貼付します。

### 4. 耐力面材を取り付ける



#### ⚠️ ご注意ください

制震テープの粘着力は大変強力です。  
貼り合わせ後の、貼り直し・位置調整は困難です。  
あらかじめ、位置決めガイド・手順等を確認の上  
施工してください。

■剥離紙を剥がし、面材を貼り合わせる。

■剥離紙を剥がした後、時間をおかずに速やかに面材を取り付けてください。

釘の種類・ピッチ・打ち込み深さ等は、使用する面材メーカーの施工要領書に準拠してください。

※釘位置は、制震テープの直上である必要はありません。

施工パターン 3 6

# 外周部全周

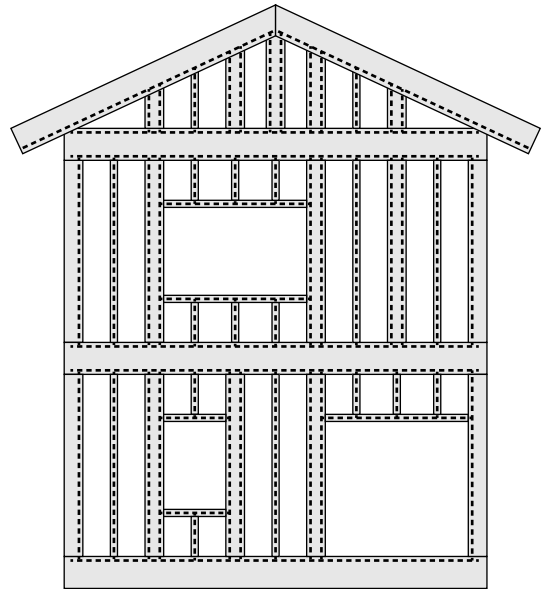
小屋裏あり

## 1. 施工範囲を確認する

施工要領は、制震テープ30mm幅の使用を標準としています。

冒頭の注意事項に加え、下記事項を事前にご確認ください。

- 制震テープを施工する軸材に凹凸がないこと。  
→ 釘ピッチ間で1mm以上の凹凸がある場合は要改善。
- 接着面に汚れ等が付着していないこと。  
→ 粘着を妨げる汚れ・粉体（埃）・油分・樹脂等は除去してください。
- 接着面が濡れている場合...  
→ 制震テープの粘着力が低下します。タッカー止めを使用するなど位置ズレ・剥がれが生じないようにご注意ください。ただし、**油分など乾燥しない成分**については施工前に除去してください。
- 引っ張らず、剥離紙に沿って貼付してください。  
→ 制震テープの収縮によって気密欠損が生じる場合があります。



..... 制震テープ貼り付け箇所

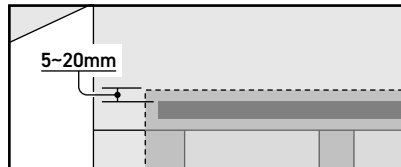
### 6 内部間仕切り壁の場合

横架材への貼付は不要です。工程3.へ進んでください。

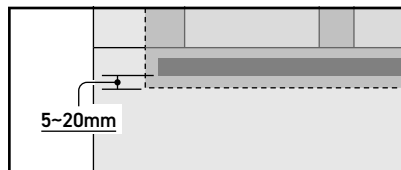
## 2. 横架材へ貼り付ける 土台・梁

■制震テープは、耐力面材の端部から5～20mm内側に収まる位置に貼り付けます。

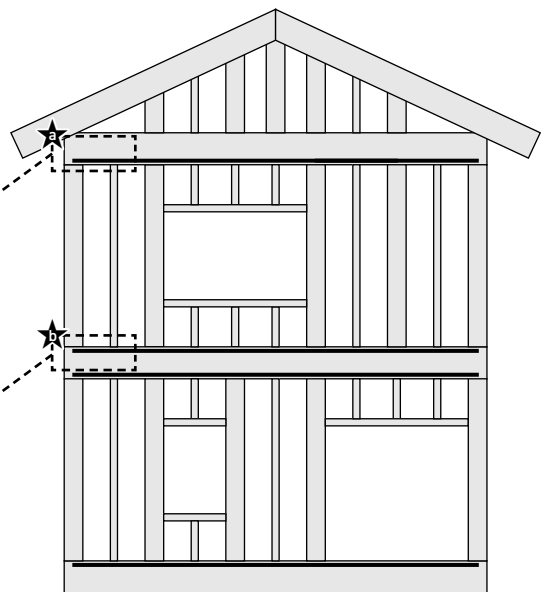
★面材上端から5～20mm内側



★面材下端から5～20mm内側



■ 制震テープ  
■ 面材取付予定位置

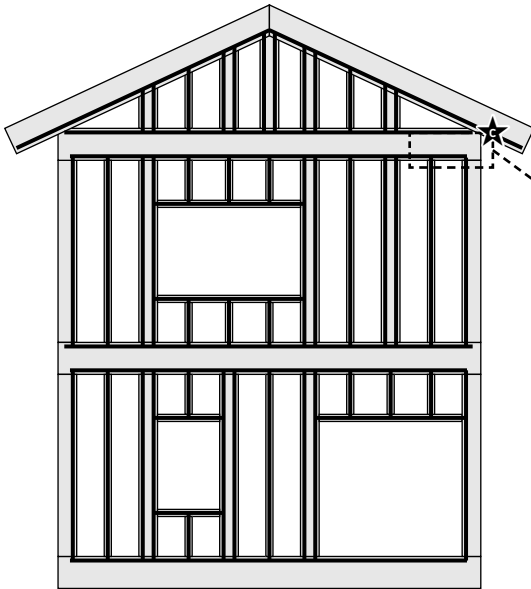


— 制震テープ

6 内部間仕切り壁の場合

横架材への貼付は不要です。(図は外周部施工のものです)

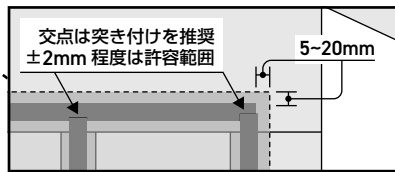
### 3. 柱・間柱へ貼り付ける



— 制震テープ

■制震テープは、耐力面材の端部から5～20mm内側に収まる位置に貼り付けます。

★面材端部から5～20mm内側



■横架材に貼付した制震テープとは、突き付けを推奨。

→ ±2mm程度は許容範囲

★気密をとる場合は、交点を2mm程度重ねます。

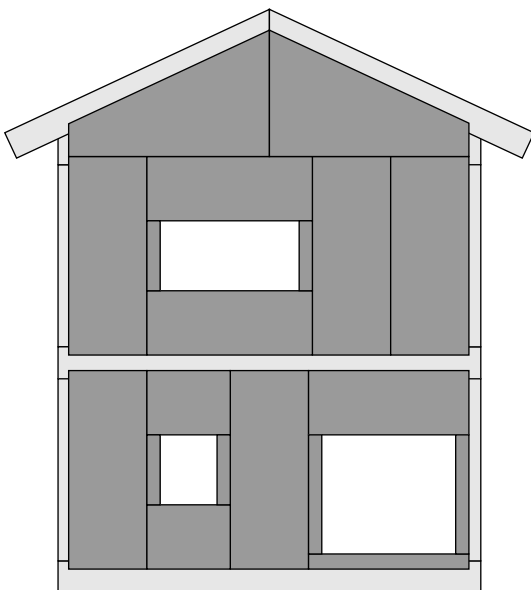
■面材が2枚掛かる柱は2列貼付します。

■工法によっては間柱に施工しない場合もあります。

■出隅柱外側に不陸調整用に施工する場合もあります。

■入隅は受け材に貼付します。

### 4. 耐力面材を取り付ける



#### ⚠️ ご注意ください

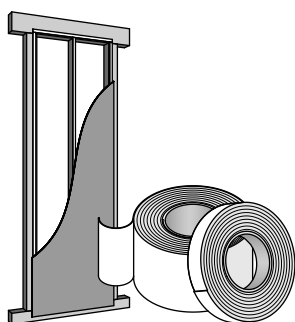
制震テープの粘着力は大変強力です。  
貼り合わせ後の、貼り直し・位置調整は困難です。  
あらかじめ、位置決めガイド・手順等を確認の上  
施工してください。

■剥離紙を剥がし、面材を貼り合わせる。

■剥離紙を剥がした後、時間をおかずに速やかに面材を取り付けてください。

釘の種類・ピッチ・打ち込み深さ等は、使用する面材メーカーの施工要領書に準拠してください。

※釘位置は、制震テープの直上である必要はありません。



“家まるごと制震ダンパー”  
**制震テープ**<sup>®</sup>

自然の“力”を科学する  
アイディールブレン株式会社